

ならまち歳時記 年間展示予定 4～9月

4月 「奈良の桜 植桜楓之碑」

しよくおうふうのひ

展示期間：4月1日（火）～4月27日（日）

かわじとしあきら

幕末の奈良奉行、川路聖謨が東大寺や興福寺に桜や楓の植樹を発案し、町の人々がそれに協力したことを記念して建てられた「植桜楓之碑」の写真・拓本などで、奈良の桜を紹介します。



植桜楓之碑

・主な展示史料

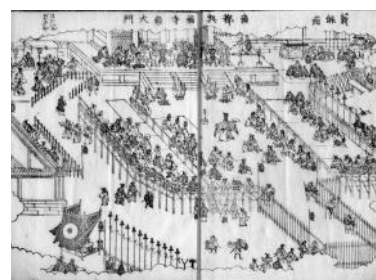
「植桜楓之碑」写真・拓本
碑文翻刻

5月 「薪能」

たきぎのう

展示期間：4月29日（火祝）～5月25日（日）

薪能は現在、毎年5月に2日間、興福寺と春日大社で行われる伝統行事です。その時期に合わせ、江戸・明治の薪能について地誌、舞台の配置図、明治の薪能番組などで紹介します。



改正絵入南都名所記

・主な展示史料

「薪能舞台配置図」
「改正絵入南都名所記」

6月 「三条村野神絵馬」

展示期間：5月27日（火）～6月22日（日）

野神とは農民・稲作の神で、村内の古木などを野神としてまつりました。田植えの時期の6月1日頃の早朝に、かつては飼牛を連れて野神の古木に参り、その年の豊作と飼牛の安全を祈りました。その季節に合わせて、三条町の野神参りの際に奉納された絵馬（摺り絵）などの史料を紹介します。



三条村野神絵馬

・主な展示史料

「大和名所図会」
三条村野神古木写真

7月 「地蔵講」

展示期間：6月24日（火）～7月27日（日）

地蔵菩薩は、庶民の身近な信仰の対象として親しまれていて、奈良町でも町内で地蔵尊をまつる町が数多くあります。7月23・24日など、地蔵盆の季節に合わせて、肘塚町町の地蔵講の本尊として祭られてきた地蔵菩薩の絵画、講のときに用いた祭具などを展示、紹介します。



紙本著色地蔵菩薩像

・主な展示史料

「紙本著色地蔵菩薩像」（肘塚町町蔵）

8月 「奈良奉行と万燈籠」

展示期間：7月29日（火）～8月24日（日）

春日大社の参道には数多くの燈籠が並んでいます。8月は、春日大社万燈籠の季節にちなみ、参道にたつ燈籠の中から、天保9年（1838）に奈良町の人々が、奈良奉行本多淡路守繁親のために奉納した燈籠などを中心に紹介します。



奈良町中から本多奉行のために奉納した燈籠

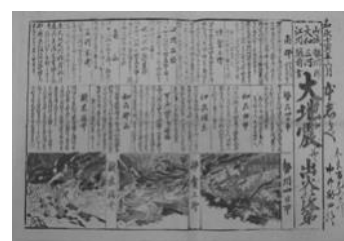
・主な展示史料

「萬大帳」（東向北町蔵）

9月 「幕末の地震記録」

展示期間：8月26日（火）～9月21日（日）

嘉永7年（1854）6月15日に起きた伊賀上野地震は、伊勢・伊賀・大和に大きな被害をもたらしました。その規模はマグニチュード7前後と推定されています。9月1日の防災の日になみ、この幕末の大地震について、町記録や瓦版などで紹介します。



嘉永七年六月大地震瓦版（個人蔵）

・主な展示史料

「井上町町中年代記」（井上町有）

ならまち歳時記 年間展示予定 10～3月

10月 「鹿の角きり」

展示期間：9月23日（火祝）～10月18日（土）

中世には「神鹿」として保護を受けていた奈良の鹿ですが、江戸時代になると鹿が人にケガを負わせることなどが問題になりました。そこで寛文12年（1672）から始まったのが鹿の角きりです。毎年10月に行われるこの行事の時期にあわせ、行事の様子を描いた奈良の案内書や角きりの絵はがきなどを展示します。

- ・主な展示史料
「奈良県観光手帳」
角きりの絵はがき



奈良勝地漫画

11月 「正倉院御開封之図」

展示期間：10月21日（火）～11月9日（日）

11月は、奈良の秋の恒例行事、正倉院展が開かれます。その宝物の公開に先立って行われるのが、正倉院の扉を開ける開封の儀式です。開封の儀式は、宝物や文書の虫干し、点検、修理などのため正倉院の扉を開けるときに天皇の使いを迎えて行われます。江戸時代には、慶長、元禄、天保と3回の修理がありました。今回の展示では、天保4年（1833）の修理の際の開封の儀式の様子を詳しく描いた貴重な絵図を紹介し

- ・主な展示史料 「天保四年 正倉院御開封之図」（個人蔵）

12月 「春日若宮おん祭」

展示期間：11月11日（火）～12月21日（日）

おん祭は春日大社の摂社若宮社の祭礼で、保延2年（1136）から続く大祭です。奈良町ではおん祭の主要な行事のひとつ、大宿所祭も行われます。奈良の冬の年中行事、おん祭について、江戸時代の祭礼図などで紹介します。

- ・主な展示史料
「春日社若宮祭図解」
（個人蔵）
「春日大宮若宮御祭礼図」



春日大宮若宮御祭礼図 大宿所

1月 「奈良町の正月行事 春日講」

展示期間：12月23日（火）～1月25日（日）

奈良を代表する信仰行事である春日講（かすがこう・しゅんにちこう）は、奈良町や周辺の農村で行われてきました。講の日を決めて鹿曼荼羅図などをお祭りし、春日社へ詣でて神楽を奉納するもので、特に正月は町中そろって春日社へ初詣に行き、その後町内一同で祝宴を開くなど、ともに飲食して結束を深める大切な行事でした。今も正月の行事として行われる春日講について、町の記録などで紹介します。

- ・主な展示史料
「諸祝儀控」 「春日講算用」



春日講算用

2月 「節分真榊奉納」

展示期間：1月27日（火）～2月22日（日）

大正15年（1926）から昭和13年（1938）まで、元林院の芸妓衆が仕丁、官女などに扮して、大真榊を積んだ御車を曳いて春日神社に参詣し、真榊奉納後、林檎の庭で神楽を奉納する行事が行われていました。節分の時期にちなみ、絵はがきや新聞でこの行事について紹介します。

- ・主な展示史料
「節分真榊奉納行事 絵はがき」



節分真榊奉納 春日神社 一の鳥居

3月 「お水取り」

展示期間：2月23日（月祝）～3月31日（火）

東大寺二月堂で3月1日～14日まで行われる修二会（しうにえ）は、12日夜に若狭井から香水をくみとることから「お水取り」とも呼ばれます。この行事の季節にちなみ、お水取りを描いた絵図や、奈良を訪れてお水取りを詠んだ芭蕉の句などを紹介します。

- ・主な展示史料 「大和名所図会」



大和国奈良東大寺御法事略図